



➔ 日系アメリカ人語り部講演「在米日系人の歩んできた歴史」

11月18日（月）日比谷高校大会議室において、日系三世のアン・シモジマさんの講演会が行われました。シモジマさんは、1982年からプロの語り部としてフェスや学校、図書館など様々な場面で活躍され、収容所を含む在米日系人の辿った歴史の講話を続けていらっしゃいます。2017年の全米語り部フェスにおいてスタンディングオベーションを受けるなど、米国内で高い評価を受けています。

シモジマさんの祖父は長野県出身で、はじめにアメリカのオレゴンへ移住されたそうです。慣れない環境の中、レストランのコックとして働いたり日用品店を営むなど勤勉に働き、良い暮らしを得たそうです。その矢先、日本による真珠湾攻撃が起きます。日米関係が悪化し、日系一世の方々は苦勞して得たものを全て失います。大統領令 9066により多くの日系アメリカ人が強制収容所に送られました（陸軍司令官や大統領夫人など、反対するアメリカ人もいたそうです）。収容所での生活はプライベートがなく、馬舎に住まされるなど非常に劣悪な環境でした。“無実の人々のための監獄”から抜け出す方法として軍に入隊することがありましたが、アメリカへの忠誠を示す試験が課せられたようです。終戦後、日系アメリカ人により構成された部隊は激しい戦闘で活躍し、多くの勲章を受けアメリカ国民から称賛されます（激闘の結果、死傷率も非常に高かった）。このことは、その後の日系アメリカ人の一般的なイメージの向上につながっています。

現在アメリカでは、イスラム教徒への対応など移民問題が表面化しています。そうした状況を受け、シモジマさんからは次のようなメッセージが伝えられました。「国難の時代には、人は基本的人権を忘れてしまう。自分が正しいと思うものにししか目を貸さないのは危険である。こんな時代だからこそ、多くの人に日系アメリカ人の歴史を知ってほしい。見た目が敵に似ているからといって憎んではいけない。アメリカは移民の国である。基本的人権の大切さを忘れてはいけない。」

Q&Aの一部抜粋

Q：終戦後の政府の急な態度の変化は、日系兵にとってどう感じられたのか？

A：ハッピーだと思う。終戦しても日系人に対する憎悪は人々の間にあったので、兵士たちが悪い評判を変えた。

Q：現代アメリカ社会には何が必要か？

A：アメリカは移民の国だと思い出し、移民の重要性を認識すること。



ご案内

➔ 12月7日「韓国ミチュホル外国語高等学校、姉妹校交流海外派遣」説明会 開催

ミチュホル外国語高等学校との姉妹校交流、派遣説明会を行います。生徒の皆さんが将来社会人として活躍する際、グローバルな視点は欠かせません。今のうちから海外に友達をもつことは非常に有意義です。地球規模で考え、語り合える友達をつくりましょう！説明会を聞いた上で考えたい、という1年生も是非参加してください！！

日時：12月7日（土）10時00分～11時00分

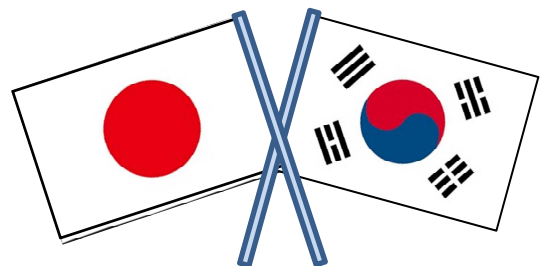
場所：本校大会議室

対象：第1学年希望生徒及び保護者

内容：「事前・事後指導を含む派遣の予定」

「昨年度参加生徒による報告」「応募書類配布」

※本海外派遣に参加しても、来年度のSSHシヨンパレ・ハワイ島海外研修、G10ホストン・ニューヨーク海外研修、ニューゼラント姉妹校交流に応募することができます。



◆ PDA首都圏公立高等学校即興型英語ディベート交流大会 2019

開催日時：2019年11月17日（日）12:00-17:30

会場：東京都立日比谷高等学校

参加校：9校（日比谷高校、都立西高校、
三田高校、千葉高校、浦和高校、柏陽高校
浦和第一女子高校、八王子東高校、湘南高校）

参加者：生徒56名、教員31名

日比谷高校を会場に、「PDA 首都圏公立高等学校即興型英語ディベート交流大会 2019」が開催されました。開会式では武内校長先生より、「志を同じにした生徒の集まりですので、大いに楽しんでください。」とエールが送られました。各ラウンドのお題は次の通りです。

第1ラウンド「Term-exam should be abolished.（定期テストは廃止するべきである）」

第2ラウンド「We should legalize euthanasia in Japan.（日本で安楽死を合法化するべきである）」

第3ラウンド「Japan should introduce the conscription system.（日本は徴兵制を導入すべきである）」

エキシビジョン「Living in an apartment is better than living in a house.（一戸建てよりもマンションに住むほうが良い）」

張り詰めた空気が漂う中、第1ラウンドが始まりました。緊張していた様子の生徒たちでしたが、ディベートが始まると白熱したラウンドを繰り広げました。定期テスト廃止の是非について「自分のやりたい勉強ができない」という意見や「短期間で集中して勉強することが大事だ」などの意見が出されました。ディベートが終わると相手チームと握手をし、ジャッジによるフィードバックが行われます。ディベートをした生徒たちだけでなく、そのラウンドを見学した生徒もジャッジのコメントを真剣に聞き、メモを取っていました。続く第2ラウンドでは効果的なPOI(Point of Information. 試合の途中で相手チームが質問・指摘することができる)の行い方や相手のポイントを予測してから自分たちの立論を考えるなど、ジャッジから受けたアドバイスを活かす様子が見られました。第1ラウンドよりも活発にPOIも行われ、安楽死合法化の是非について、病気を抱えた当事者の視点や家族の視点など様々な視点から議論が展開されました。最終第3ラウンドの徴兵制導入の是非については、女性の出産やキャリアの問題、日本の安全など幅広い観点からディベートが行われました。

最後にジャッジから推薦された6名によるエキシビジョンディベートが行われました。本校からは21RのNさんが選出されました。セキュリティ面でどちらが良いかなどについて立論や反論、時にはPOIを交えながら議論しました。勝敗の判定は、見学していた生徒と校長先生の投票により行われ、Opposition(Nさんのチーム)の勝ちとなりました。エキシビジョンディベートの準備時間にPDAスタッフにより行われたジャッジレクチャーを参考に、勝敗を考える機会となりました。

【各賞受賞の様子】〈チーム賞〉1st 柏陽 2nd 県立浦和 3rd 日比谷 4th 浦和一女 5th 湘南

〈エキシビジョンディベータ賞〉21R Nさん ほか 〈POI賞〉16R T君 ほか

〈ベストディベータ賞〉16R T君 13R Kさん 26R O君 ほか

参加生徒の声

- ・ 普段より英語のレベルが高く、内容も深い議論だった。他校の意見が面白かった。
- ・ 普段の授業で感じることでできない即興型ディベートの楽しさや、英語で社会問題を議論する楽しさを知ることができました。
- ・ またやりたいです。次はもっとうまくできるように授業でちょっと練習したい。